

大布薩をおつとめして

定光寺 乙川文英

令和元年七月二十六日 加茂法話会

布薩

半月に一度、僧団の比丘が全員一個所に集まり、波羅提木叉（個人の行動に関わる規則を約二百五十条並べたもの）を聞いて自己の行動を反省する集まり。

「半月の布薩は、三世佛の恒式、金口明明、佛子たる者は、苟も怠たるべからず。」（誦戒凡例）

略布薩

請戒師・懺悔・唱礼・四弘誓願・戒師陞座・順逆洒水・誦戒經・処世界梵・三帰礼・回向

大布薩

露地の偈・布薩の偈・浄水の偈・香湯の偈・浴籌の偈・受籌の偈・還籌の偈・戒師陞座・散華の偈・焼香の偈・如来唄・誦戒經・回向・処世界梵・三帰礼・普回向・四快の偈

梵網經（梵網經盧舍那佛説菩薩心地戒品第十）

「諸の佛子等、掌を合せて至心に聴きたまえ。我今、諸佛の大戒の序を説かんと欲す。衆、集まれり。默念として聴きたまえ。自ら罪有りと知らば、当に懺悔すべし。懺悔すれば、即ち安樂なり。懺悔せざれば、罪益々深し。罪無くんば、默念せよ。默念するが故に当に知るべし、衆清浄なり、と」

「佛滅度の後、遺法の中に於て、応当に波羅提木叉を尊敬すべし。波羅提木叉と言ば、即ち是れ此の戒なり。此の戒を持つ時は、闇に明に遭えるが如く、貧人の宝を得るが如く、病者の差ゆることを得るが如く、囚繋の獄を出づるが如く、遠行の者の帰ることを得るが如し。」（梵網經菩薩戒序）